

地方創生加速化交付金・平成28年度地方創生推進交付金に係る事業検証結果

- 国は、地方創生を推進するため、各自治体が地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づいて実施する事業を支援する標記交付金を、平成28年度創設しました。
- 本交付金は、事業実施に伴う効果について、重要業績評価指標(KPI)を設定のうえ、その達成度合を検証することが求められています。
- 本町では、本交付金を活用して平成28年度に次の事業を実施しました。

No	① 交付対象事業の 名称	② 事業内容	③ 交付金の 種類	④ 実績額 単位:円	⑤ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑥ 本事業終了後における 実績値		⑥ 実績値を踏まえた事業の今後について		⑦ 29年度 予算額 単位:円	⑧ 担当課	⑨ 外部有識者からの 評価	
					指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	今後の方針	今後の方針の理由				
1	第2のふるさと・いばらきプロジェクト推進事業	ふるさと県民登録制度等により掘り起こした東京圏の住民や近隣市に移転してくる企業の従業員等を対象に、雇用促進住宅などの公共ストックを確保することや、空き家物件の有効活用を検討することにより、新しいタイプの住宅供給モデルを構築し、移住者の増加を図る。	加速化	24,999,490	指標①	中長期住宅の入居者 (雇用促進住宅)	20	世帯	平成29年3月	20	地方創生に効果があった	事業の継続	隣接する市への自動車関連会社の工場移転という機会をとらえ、従業員の当町への移住・定住を促進することで、引き続き移住・定住人口の増加を図る。また、潜在的な移住希望者の掘り起こしのため、移住相談会等のPRを実施するとともに、移住希望者のためワンストップの相談体制の整備に努める。	0	企画経営課	総合戦略のKPI達成に有効であった
2	水郷筑波・サイクリングによるまちづくりプロジェクト	茨城県等が中心となって進めている日本のサイクリング環境の構築に向けた取組を踏まえ、ここから派生する新ルートを古河市等の協力を得て展開することで、何度訪れても様々なサイクリングコースを楽しめる「サイクリング大県いばらき」の実現を図る。 また、官民連携の取り組みとして、漫画「弱虫ペダル」とのコラボレーションプロジェクトを実施し、サイクリング事業の推進に活用するとともに、地元農産物や加工品等の地域資源を活用したオリジナル商品を開発、ふるさと納税の記念品利用、さらに、茨城県や境町を漫画「弱虫ペダル」に登場させ、茨城県と境町等圏域のPRを行う。 観光客に対し効果的に町の魅力を伝えるため、観光案内所を開設し、新たに雇用することで、圏域のイメージの確立と情報発信の強化を進め、交流人口の拡大を図る。	加速化	13,002,088	指標①	道の駅さかい売上	15	%	平成29年3月	294	地方創生に効果があった	事業の継続	他市町村の事例を踏まえ、観光客の集客を図るには、他市町村と連携した観光圏を形成していく必要があるため、川の町をテーマに、エアポートを活用し観光客の集客を図り、五霞町・野田市と連携し利根川を中心とした観光圏を形成していく。 圏央道開通に伴い、町の知名度向上と地場産品の開発が必要となっており、当町の特色を生かしたオリジナル加工品を開発を強化する。 サイクリストの増加に伴い、拠点の継続的な整備が必要であるため、利根川観光圏を形成すべく取り組む。利根川を中心にサイクリストや体験型のプログラムにより、交流人口を増加させる方針。また利根川でつながる群馬県についても連携事業を推進していく。 事業を継続する為に、観光客を確保し安定した事業運営を行い雇用を生み出す。 サイクリストは確実に増加しており事業を継続していく。サイクリスト用のHPによりレンタサイクル部門の強化を図る。また利根川でつながる群馬県についても連携事業を推進していく。	0	まちづくり推進課	総合戦略のKPI達成に有効であった
指標②	付加価値のある加工品の開発	2	品	平成29年3月	5											
指標③	交流人口の拡大	50	万人	平成29年3月	50											
指標④	地域雇用者	3	名	平成29年3月	5											
指標⑤	観光アプリダウンロード数	500	DL	平成29年3月	1,000											
指標⑥	レンタルサイクル利用者	150	人	平成29年3月	182											
指標⑦	サイクリングツアーの開催	2	回	平成29年3月	2											
指標⑧	サイクリングによる交流人口	5,000	人	平成29年3月	5,000											

No	① 交付対象事業の 名称	② 事業内容	③ 交付金の 種類	④ 実績額 単位:円	⑤ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑥ 本事業終了後における 実績値		⑥ 実績値を踏まえた事業の今後について		⑦ 29年度 予算額 単位:円	⑧ 担当課	⑨ 外部有識者からの 評価	
					指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	今後の方針	今後の方針の理由				
3	利根川・江戸川の 魅力を活用した DMO観光地域づ くりの連携事業	既存の船着き場等を有効活用し「川でつな がる観光拠点」を舟で結ぶ舟運観光を導 入することで、大河「BANDOTARO」の自然 的文化的魅力を、観光客に強みに発信す る必要性が合意され、その実現のために 各種施策を立案、実行していく母体として 「かわのまちDMO」を設立。本DMOでは、 観光客ニーズ分析に基づいた戦略的な マーケティングを行い、観光客の受入態勢 や当該地域における商品等開発の総合的 な企画を行っていく。	加速化	42,013,077	指標①	広域観光周遊ル ートのモデルコース 設定	2	本	平成29年3月	2		他市町村の事例を踏まえ、観光客の集客を図るに は、他市町村と連携した観光圏を形成していく必要が あるため、川の町をテーマに、エアポートを活用し観 光客の集客を図り、五霞町・野田市と連携し利根川を 中心とした観光圏を形成していく。 圏央道開通など当町の知名度が増す中、道の駅を着 地型観光の拠点としたい。今後も川の町の歴史と観 光を結びつけるプログラムを実施し、人材育成を継続 する。道の駅はDMCとしての運営が形成されつつあ るが、DMOとして観光拠点化を図るためには、人材育 成と時間が必要であるため、道の駅を中心にDMOを 視野に入れた活動プログラムを継続し人材のレベル アップを図り着地型観光の形成と、地場産品をブラッ シュアップしていく。	0	まちづくり推進課	総合戦略のKPI達成に 有効であった	
	DMO観光地域づ くり推進事業【1年 目】	境町が誇る利根川河川敷を活用した「新し い人の流れの創出」及び「しごとの創出」を 実現するため、北関東三県と連携しなが ら、次年度以降の本格的稼働に向けて、当 町の観光資源(さかいの河岸)等のブラッ シュアップ並びに活用法や市場ニーズ 調査等を実施することで事業の深化を図 る。 ・河川敷利用者及びサイクリング利用者等 の誘客が見込まれる「道の駅さかい」は、 現在狭隘であり、駐車台数も少ないた め、改修を実施する。また、「道の駅さ かい」を中心として地域特産品の六次産業化 を推進するため、加工スペースの整備も実 施する。	H28推進	37,990,200	指標②	道の駅さかい売上	15	%	平成28年4月	294	地方創生に効 果があった	事業の継続	平成29年度は関東最大級の花火大会を計画しており 昨年度の倍の集客を見こんでいるため、利根川河川 敷を有効利用する方針。			20,000,000
4	日本茶初輸出さ し茶ブランドの価 値向上・発信事業 ～産地5市町が 連携して～【1年 目】	さし茶の摘採面積や生葉収穫量等の生 産に係るデータ収集やさし茶のルーツ調 査、信頼につながる「産地」の情報を精査 し、関心と呼び共感を生むための「ストー リー」や「イメージ」を組み立て、さし茶ブ ランドの方向性を検討する。	H28推進	3,000,000	指標①	事業参画生産者の さし茶売上の増 加	2,500,000	円	平成29年3月	3,000,000	地方創生に効 果があった	追加等更に 発展させる	さし茶のブランドストーリーを確立し、消費者に発信 する。前段では「アメリカへの日本茶初輸出」の史実 を精査し、販売戦略に活かし、販路拡大に資する。	10,000,000	農業政策課	総合戦略のKPI達成に 有効であった